NPO birth・宮下さん

「愛・地球博」に出展

身近な自然に親しみを

足立のドングリ　長久手を経由して世界へ

21世紀初の国際博覧会『愛・地球博』が3月25日、愛知県の長久手・瀬戸の2会場で開幕した。万博史上初めてとなる本格的な市民参加が大きな特徴だ。

足立区NPO活動支援センターで支援専門員を務める宮下尚士さんが所属する特定非営利活動法人NPO birth（バース）も参加し「楽習」できる。

宮下さん

アメリカの団体らとユニットを組み、「地球市民村」に出展。里山・公園・都市農地などまちの緑を守り育む活動を実践する。

長久手会場で展開される「地球市民村」は、環境問題や国際協力など持続可能な社会づくりに取り組む全30ユニット（5ユニット×6か月）がプログラムを提供。展示だけでなく誰もが参加し「楽習」できる。

NPOバースのパビリオンは「まちに地みどり面」と名づけられ、9月1日から最後の1か月間を担当。コンセプトを「感じて―まちなかのみどり妖怪シードロの気配」とし、身近な自然と仲良くなるためのきっかけづくりを行う。

「シードロ」とは、地元の緑を守り、育てる自然の精霊のこと。シード（種）とドロ（粘土）で実際に生み出すことができる。

来館者には、まず自分の住んでいるまちの緑を守る妖怪をイメージしてもらい、植物の種と瀬戸焼に使用される粘土を使って形に。そして自宅に持ち帰り、土のある場所にかえすと妖怪から芽が出てくるという仕掛けだ。宮下さんは「参加者それぞれ地域の自然を表すシードロを見比べるのもおもしろいですよ」

植物のタネにはクローバーやナノハナのほか、足立グリーンプロジェクト（平田裕之代表）の協力により舎人公園など区内で集められた約70kgものドングリが含まれている。会場には世界各国から多くの人々が訪れるため、やがて遠い異国で芽吹き育った草木が、実は足立区生まれだったなんてこともあるかもしれない。

今、地球の環境問題に対し、自然との共生を考え行動していくことが重要とされている。「そのきっかけとして、まずは身近にある自然に関心を持ってもらえればと期待する宮下さん。支援専門員として区内の相談に耳を傾けるかたわらで、早くも準備に追われる毎日を送っている。

『愛・地球博』は「自然の叡智（えいち）」をメーンテーマに、日本を含む122か国と4つの国際機関が参加し、9月25日まで開催される。

シードロを作ろう！

校長先生ありがとう、さようなら

足立区内の小学校校長11人と中学校校長4人が3月31日付で退職した。そこで各人の教育に携わった長い人生を振り返り、熱い思いを語ってもらった。

【質問】①長い教職生活で、一番の思い出あるいは感慨をお聞かせください。②これからの「教育」に寄せる期待、メッセージをお話しください。

（敬称略、肩書は3月31日現在のものとする）

国税専門官募集

申込は15日まで

国税局や税務署において、法律・経済・会計等の専門知識を駆使し、適性かつ公正な課税の維持や租税収入を確保するための事務を行う税務のスペシャリスト「国税専門官」試験の受験者を募集しています。

◇実施要項◇

＜受験資格＞

▽昭和53年4月2日～昭和59年4月1日生まれの人。

▽昭和59年4月2日以降に生まれた人で、大学卒業者及び平成18年3月までに卒業見込みの人。（または人事院がそれと同等の資格があると認める人）

＜申込書交付&受付＞

▽4月1日㈮～15日㈮

＜試験日＞

▽第1次＝6月12日㈰

▽第2次＝7月25日㈪～28日㈫のなかの指定日

※詳細は足立税務署・総務課☎3870・8911または西新井税務署・総務課☎3840・